

# 「東お多福山ススキ草原復元」活動報告

秦 康夫

2016年4月16日（土）9:00～15:30

作業項目：1）全面刈り

2）樹木の分布数・生育状況の予備調査

今日は早春の全面刈りということで、総数70名を超える過去最大の参加人数となった。東お多福山山頂広場で、橋本事務局長から本日の作業内容と安全作業についての注意事項等の説明があり、3班に組分けして作業に入った。うち2班は昨秋刈り残した場所の全面刈り、1班は特別保護地区の伐木申請に必要な樹木の分布数・生育状況の調査をすることになっている。

JAC 関西支部の5名は、「西宮明昭山の会」のメンバー15名とともに、芦屋登山道の途中から南に分かれて展望台に続く切り開き区域の全面刈りと、展望台周辺のネザサ刈り取りを担当することになった。東お多福山の東斜面になるこの辺りは、山頂周辺と違って視界をさえぎる樹木が殆どない。本来は大阪湾方面の絶好の展望所だが、背丈を越して繁茂するネザサ群が眺望を妨げていた。昨年、2度に亘る作業で平地の展望台周辺のネザサを刈り取り大きく眺望が開けた。またそこに至る幅1.5m程の切り開きも整備した。今回は、展望台周辺と、里道の両側の刈り取り範囲を広げて、ススキ草原復元の下地を作り、活動区域を拡大させようとするものである。

10数名が分担場所を決めて、草刈り鎌や剪定バサミでネザサの刈り取り作業に入ったが、何年もかけて成長したネザサは、太くて堅い。結構腕力を要する作業である。姿は見せないがササヤブの中、あちこちからウグイスの

さえずりが聞こえる。手作業でササを刈り取り、刈り取ったササをまとめ、まとめたササを集積場所へ運搬する、という作業の繰り返しだが、午前、午後、多人数が精力的に活動したお陰で、一帯は作業前に比べ格段に明るくなり、見通しも良くなった。作業の成果が目に見える形で現れて来る、というのは気持ちのいいものである。

【参加者】

斧田一陽、猪川誠、秦康夫、田島聖子、森脇肇子

計 5 名



① 集合写真 JAC 参加者 5 人



② 背丈を越えるネザサの刈り取り



③ 刈り取ったササを集積所へ運ぶ



④ 刈り払い機による作業



⑤ 刈り取りで開けた展望所で昼食



⑥ 作業風景



⑦ 作業風景



⑧ 作業後



⑨ 陽光が射し込むようになると、スミレも復活する